

## 第 1 回地区意見交換会における主な意見

<b>1 重点校・拠点校・地域校の配置</b>	1
(1) 重点校・拠点校について	1
(2) 地域校について	2
<b>2 学校規模・配置</b>	4
(1) 学校規模・配置の考え方	4
ア 充実した教育環境の整備について（学校規模の必要性）	
イ 地域の実情への配慮について	
ウ 学級編制の弾力的な対応について	
(2) 学校規模・配置の具体的な提案	9
<b>3 定時制課程・通信制課程の配置</b>	14
<b>4 多様な教育制度</b>	15
(1) 全国からの生徒募集について	15
(2) その他の教育制度について	19
<b>5 その他</b>	20
(1) 学科等について	20
(2) 特別支援教育の充実について	21
(3) 通学支援等について	22
(4) その他	23

# 1 重点校・拠点校・地域校の配置

## (1) 重点校・拠点校について

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 配置の考え方については、このままで良い。(同様の意見あり)</li> <li>○ 目的、役割を持って配置されていると思うため、今後もそのような目的を持って続けてほしい。(同様の意見あり)</li> <li>○ 役割等を一般県民が分かるように周知してほしい。</li> <li>○ 成果も出ていると思うので、連携校についても取組内容などをアピールしていければ良い。</li> <li>○ 重点校は各地区それぞれ1校指定されているが、ライバルと切磋琢磨する中で実力向上が図られることから、東青地区は青森東高校をもう1校重点校として格上げすべき。</li> <li>○ 重点校をさらに増やす必要はない。拠点校については、他の職業高校との連携や協力をさらに強める必要があるため、安易に学級減すべきでない。(意見等記入票)</li> </ul>
西北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1期実施計画の成果を踏まえ、引き続き、重点校を五所川原高校、拠点校を五所川原農林高校として配置すべき。(同様の意見あり)</li> <li>○ 五所川原高校は5学級規模であるが、生徒数の減少により4学級規模となることで、重点校ではなくなる懸念がある。</li> </ul>
中南	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 弘前高校、弘前工業高校については、それぞれ他校と連携し役割を果たしている経緯もあるため、このまま重点校・拠点校として存続してほしい。(同様の意見あり)</li> <li>○ かつての藤崎園芸高校、そして弘前実業高校藤崎校舎に引き継がれたりんご科の特色を引き継いでいくため、中南地区にも農業科に関する拠点校があっても良い。</li> </ul>
上北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 重点校・拠点校については、第1期実施計画と同様の配置で良い。</li> <li>○ 重点校・拠点校の取組は、一極集中となって町村部の子どもたちが市部の高校に通学せざるを得なくなり、町村部の高校が定員割れを起こすという悪循環が生じているのではないか。</li> <li>○ 重点校の名称に違和感を持っている。それ以外は重点的な高校ではないということになりかねない。</li> <li>○ 三本木高校も三沢高校も中学生にとって魅力ある高校にするには、例えば、5年ごとに重点校の指定を変え、互いに競争させるのも面白い。(意見等記入票)</li> </ul>
下北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 重点校については、第1期実施計画の配置を維持することが望ましい。(同様の意見あり)</li> <li>○ 重点校及び拠点校における取組や、各高校において身に付けられる力、取得できる資格、就職先等について情報提供されることが多くなった。</li> </ul>
三八	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な取組や他校との連携により役割を果たし、成果を上げていることから、重点校、拠点校ともに継続して良い。</li> <li>○ 重点校及び拠点校が実施する教育活動への各高校の生徒の参加や学習成果の共有等の取組は評価できる。各高校の連携を一層強化することが重要である。</li> <li>○ 重点校・拠点校という名称については、誤解を生む可能性もあるため、十分な説明が必要である。また、重点校と拠点校の連携も効果的である。(意見等記入票)</li> </ul>

## (2) 地域校について

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校舎制に移行しないのであれば、「1学級規模の地域校における募集停止を協議する基準」に基づいて速やかに対応を検討する必要があるが、「高校教育を受ける機会の確保」とも関連付けての協議が肝要となる。(意見等記入票)</li> </ul>
西北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1期実施計画において、「再編を含め引き続き検討する」となっている鱒ヶ沢高校を地域校として配置した上で、基本方針改定により追加された学校活性化を進めてほしい。</li> <li>○ 公共交通機関の減便、廃止が進んでいる状況であるため、各地域に地域校でも良いので、高校を残していくことが大切ではないか。地域校においては、地域の特性を生かした学びを提供することで入学者数は増えると考えるので、地域等と一体となった高校の活性化に向けた取組に期待したい。</li> <li>○ 第1期実施計画において中里高校が地域校として残り安堵していたが、結局のところ募集停止となるなど、地域校の価値が薄れた。地域に残りたいと考える子どもたちのために、地域校における募集停止等の基準を変えてほしい。</li> <li>○ 鱒ヶ沢高校が地域校の基準に該当した場合は、木造高校から県境まで高校が存在しない地域ができるため、進学を断念せざるを得ない生徒が出てくるのが懸念される。そのため、柔軟な制度の導入を検討することや、学級編制の弾力化等について国に働きかけることが必要である。</li> <li>○ 鱒ヶ沢高校を地域校として配置する場合、公務員試験対策など特色ある教育課程を編成することで、地元に残って働きたいと考える中学生が入学し、学校の活性化につながる。</li> <li>○ 地域校は学力に課題がある子ども、立場的に弱者の子どもを受け入れ育てるという地道だが隠れたファインプレーを歴史的に積み重ねていることの認識を深めたい。また、そのような優れた教育活動に着目した計画であるべき。(意見等記入票)</li> <li>○ 学力に課題がある子ども、家庭が経済的に豊かではない子どもにとって、何より優先する条件は「近いこと」であり、極端な少子化が進む辺境の状況を踏まえると、地域校における募集停止の基準が厳しすぎるため、弾力化を強く希望する。(意見等記入票)</li> </ul>
中南	<p>特になし</p>
上北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1期実施計画と同様の配置で良い。</li> <li>○ 六ヶ所村には地元で高校がなければ高校進学を諦めてしまう地域もあるので、六ヶ所高校を存続させたい。村としても昨年度も様々努力はしてきたところであり、来年度の受検者数の増加を目指していきたい。</li> <li>○ 第1期実施計画と同様の配置で良い。やがて1学年1学級規模となるだろうが、公共交通機関や六ヶ所村の中学校卒業生の40%の進学先となっている状況から存続させたい。(意見等記入票)</li> </ul>

下北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大間高校が地域校という位置付けが良い。(同様の意見あり)</li> <li>○ 大間高校は、地域の活性化にとって非常に大事であり地域校として存続してほしい。地域校の活性化に向けた対応について、将来にわたって地域に学校を残すための方策を県教育委員会も真剣に考えてほしい。</li> <li>○ 基本方針では、農業科の拠点校に関する部分で寄宿舎の活用について触れられているが、地域校においても寄宿舎の活用を検討してほしい。</li> <li>○ 大間高校で生徒たちが充実した高校生活を送っていることをアピールすることが、入学者数の増加にもつながっていくため、県教育委員会でも各校における特長を積極的に広報してほしい。</li> <li>○ 大間高校については、地域校として配置を継続すべきである。地域との連携による魅力的な学校づくりを更に進め、今後も入学者数を確保してほしい。</li> <li>○ 大間高校に限らず、どの地域校も現状のままでは中長期的に見ると厳しい状況になるので、特色ある教育に特化した高校として存続するか、高校を統合するかの2択になる。</li> <li>○ 今後更なる少子化が加速により、令和8～9年度頃には地域校に関する基準を見直す必要が生じる可能性がある。地理的な問題から高校教育を受ける機会を失うことを最も心配している。高校の小規模化によるマイナス面はあるが、学校が存在するか否かの差は大きい。</li> </ul>
三八	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域校に指定されている田子高校が閉校となると、三戸郡には地域校がなくなる。三戸郡は山間部で通学のための交通が不便な地域が多く、その観点からも三戸高校は地域校的な役割を担う普通高校として存続をお願いしたい。</li> <li>○ 三戸高校を存続させるため、地域校として設置し特色ある小中一貫の三戸学園と三戸高校が一体となり、更に教育改革を進めることで特色ある学校を作っていくべき。</li> <li>○ 三戸町が通学支援等を行った上で、募集停止の基準に該当したら再編すると示された方が町や地域が協働して取り組んでいく体制ができ、この地域の高校教育の機会の確保につながるので、町や地域が努力し生徒数を確保すれば高校が存続する形にしてほしい。</li> <li>○ 地域校の基準への該当については精査した上で進めてほしい。</li> <li>○ 三戸高校について、小中高連携した12年間の教育活動により成果を上げていること、国において普通科再編を検討していること、三戸郡内はもとより八戸市や岩手県北からも入学生があり広域的な普通科の受け皿となっていることを踏まえ地域校として配置すべき。(意見等記入票)</li> <li>○ 地理的な要因から高校に通学することが困難な地域が新たに生じることのないよう、三戸高校を地域校として配置することについて、十分に配慮してほしい。(意見等記入票)</li> <li>○ 三戸高校が地域校となり将来的に募集停止になってしまうと、三八地区全体を見た場合に高校の配置バランスが問題になる。(意見等記入票)</li> <li>○ 当該地域住民にとっては重大な案件のため、丁寧な進め方が望まれる。(意見等記入票)</li> <li>○ 現行の基準では、三戸高校を地域校に指定することが今後の存続を約束するような効力を持つものではないため、単に「存続することのみ」に囚われた議論は避けるべき。(意見等記入票)</li> <li>○ 現行の基準では、地域校がいつ廃校になってもおかしくないという不安から生徒・保護者の選択肢から排除されるため、進学や就職のサポートを充実させるなど、生徒のモチベーションを下げない教育環境づくりが必要である。(意見等記入票)</li> </ul>

## 2 学校規模・配置

### (1) 学校規模・配置の考え方

#### ア 充実した教育環境の整備について（学校規模の必要性）

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校規模が小規模になることで、教員配置や部活動にも影響することについて周知することが大事である。</li> <li>○ 学校規模の標準を4学級以上とすると、それ以下は東青地区では浪岡高校が該当するため、廃校に向かうのかという複雑な気持ちもある。4学級が適正と納得しているが、4学級に縛られて大丈夫かという気持ちもありバランスをうまく考えていく必要がある。</li> <li>○ 1学級40人として重点校6学級（240人）以上、拠点校が一つの専門学科で1学年当たり4学級（160人）以上の規模を標準とするのは現時点で妥当な数値目標である。（意見等記入票）</li> <li>○ 教育の成果を上げるための生徒の望ましい集団規模も十分分かるが、異年齢集団での教育活動をはじめ、地元高齢者との交流等を通して育まれる優しい心や思いやりの心、年配者に対する畏敬の心のほか、地元伝統芸能を継承する課外活動等を通して郷土に対する愛着や誇りが芽生えるなど、心豊かでたくましい生徒の育成が期待できるため、1学級規模となってもすぐに統廃合対象とせず存続させることを希望する。（意見等記入票）</li> <li>○ 各高校の教育活動の鈍化を避けるべく、将来的な生徒のニーズや社会状況、学校規模のバランスを考慮しながら、適切に削減する学級数を決定してほしい。（意見等記入票）</li> </ul>
西北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小規模校について、学習面では教員の目が行き届くためきめ細やかな指導が可能となるが、部活動の面ではある程度の規模の学校でなければ選択の幅が限られてしまうことから、ある程度の学級数があって生徒が集まる学校でなければならないことも理解できる。</li> <li>○ 少子化は、全国的・全県的な傾向だが、西北地区においては特にその傾向が顕著であり、今後も続くと考えている。そのような実態を踏まえると、基本方針における学校規模の標準は理解できるものの、地域の実情に合わせて弾力的に考えてほしい。</li> </ul>
中南	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地元にある高校の校名をそのまま残すことを第一とすべきであり、統廃合は究極の手段である一方、1学級で高校を存続した場合に、生徒が充実した高校生活を送れると言い切れない。勉強以外の部活動などの活動を行う上でも、1学年4学級がぎりぎりの学級数である。</li> </ul>
上北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校規模の標準を重点校は6学級以上としているが、その重点校を維持するためには、将来的に郡部の学級数は少なくなり、そして最後には閉校にならざるを得なくなる。</li> <li>○ 時代はインターネット社会となっており、他校の教員の授業をオンラインで受けるなど、様々な工夫ができる。小規模校でも工夫次第では時代に対応できるのではないかと。</li> <li>○ 生徒が減ると学級数が減るのは致し方ないが、上北地区には農業高校、商業高校及び工業高校といった職業教育を主とする高校は絶対必要であり、学校規模の標準については、最低限拠点校のように35人の4学級、140名が妥当である。</li> <li>○ 第2期実施計画における学校規模の標準は問題ないが、それ以降は少子化により学級数が確保できなくなることを考慮すると、学校規模の標準の再考が必要となる。（意見等記入票）</li> </ul>

下北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 下北地区では、学校規模の標準に満たない高校も配置されているが、他の地域とのバランスも考慮して弾力的に取り扱っても良い。</li> <li>○ 大間高校のように、学校規模が小さくなることで、かえって学習環境の質を確保しやすい状況が生まれてくることも理解してほしい。</li> <li>○ 学校規模に応じて開設科目数が大きく変わることを踏まえるとともに、生徒が希望する部活動に取り組める環境を準備するためには、学校規模を維持していくことが非常に大きなポイントである。</li> </ul>
三八	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保護者の希望としては、通学を含め、安心・安全で多様な選択肢の中で高校教育を受けられることが高いニーズとしてある。また、多くの子どもたちの中で高校教育を受けたいという要望もある。この点も踏まえた検討をお願いしたい。</li> <li>○ ある程度の学校規模は必要だが、規模にとらわれて、画一的な高校教育改革にならないようにお願いしたい。</li> <li>○ 学級数が減少すれば開設科目が減るという説明があったが、オンラインによる授業を実施することで対応できる。三戸高校だけを対象とするのではなく、例えば津軽地区の高校2～3校に同時配信することで多様な教育が可能になる。</li> <li>○ コロナ禍でテレワーク等、インターネットやパソコンを活用した働き方が出てきたが、学びにおいてもICTを活用し、学校規模の標準より学級数が少なくても豊かで充実した学びが得られることも考えながら検討を進めていくことが必要ではないか。</li> <li>○ 多人数の中で教育を受けることで、学力向上、人格形成などはしやすいが、小規模で手厚い教育を必要とする生徒もいるので、バランスが重要である。（意見等記入票）</li> </ul>

## (1) 学校規模・配置の考え方

### イ 地域の実情への配慮について

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 青森市内の高校に関して統廃合には反対する。小・中学校はもちろん高校も含め学校は地域の中核になる。高校生の動きを大人は期待しながら見ている。</li></ul>
西北	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 郡部の高校がなくなっていくことは非常に残念であるため、郡部の高校に生徒が集まるようなアイデアや特色ある教育活動を生かしながら郡部の高校を存続させるような高校教育改革を進めてほしい。</li><li>○ 基本方針は、様々検討されてきたと思うのでこれで良いが、結果として郡部から学校がなくなり、市部に学校が集中している。学校がなくなる地域はオール青森の恩恵を受けることができるのか疑問である。地域の活性化や活力維持のために守るべき高校もある。</li><li>○ 生徒数が減少する中であっても、地域に学校を残し、商工会議所の活動と連携しながら生徒に地域の良さを知ってもらい、それを将来に結び付けていくことで地域活性化を図れる。</li><li>○ 基本方針のとおり計画が進み、市部にしか学校が残らなくなるということは、郡部の高校が地域の活性化のために設置されてきた経緯を考慮するとあまりに短絡的な考え方である。</li><li>○ 産業界では、地域の衰退の一番の要因は、地域から高校がなくなることだと考えている。</li></ul>
中南	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 子どもの選択肢を狭めないため、生徒数の減少はあるが、学校数を減らしたり、高校を統廃合したりするのではなく、前向きに考えてほしい。</li><li>○ 限られた財源での「教育環境の整備」と「高校教育を受ける機会の確保」は相反する観点であるが、青森県の未来を担う子どもたちが夢や志の実現に向けて成長できる高校教育のため、高校教育を受ける機会の確保に重点を置いて議論すべき。(意見等記入票)</li><li>○ 藤崎町の場合、弘前市内の高校以外に通学する際には、電車で片道1時間以上要するため、弘前市内の高校への志望が必然的に多くなり、門が狭くなっている。入試でどうしても点数が取れない生徒などの高校教育を受ける機会を確保できるような改革を期待する。(意見等記入票)</li></ul>
上北	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 郡部の高校については魅力がないところに課題がある。自分の町が魅力的でなければ子どもたちは地元に残らない。</li><li>○ キャリア教育の一番のベースは、地域の良さをしっかりと知ることである。オール青森という考え方で良いが、学級数や学級の定員を減らしてでも、高校を存続させるべき。小・中学校だけでは培えない地域の良さをしっかり高校で学習させることが重要である。</li><li>○ 各高校で特色を持ってアピールしていけば、ある程度の生徒は集まってくる。私立高校は地域のニーズを踏まえた高校づくりを進めているため、それを参考にしながら高校教育改革を進めてほしい。</li><li>○ 今後は、三本木高校周辺よりも三沢高校周辺の人口が多くなることを考慮する必要がある。(意見等記入票)</li></ul>

下北	<p>○ 下北地区は、大間高校を除くとむつ市内に3校の高校がある。進学校の田名部高校、職業教育を主とする専門高校のむつ工業高校、多様な選択科目を有する総合学科の大湊高校の3校それぞれが充実した教育環境となっている。また、各地域における通学事情が異なるため、進路の多様性は欠如していることもあるが、高校教育を受ける機会は確保されている。(意見等記入票)</p>
三八	<p>○ 新郷村内の中学生のほとんどが八戸市内の高校へ進学している状況にある。生徒数は3年生だけで20人弱であるが、各々が進路希望を持って学習しているため、子どもたちの希望が叶うような高校教育改革をお願いしたい。</p> <p>○ 今後も生徒数が少ない高校を廃校とする案では、この先、公立高校はなくなるのではないかという不安が生徒・保護者から生まれ、県教委に対するイメージダウンにつながる。また、小さい自治体では高校がなくなると盛り下がり、町の衰退にもつながる。三戸や田子地域においても地域おこしが活発になっており、高校再編も連動し、自治体と連携して小規模でも良いのでその地域にしかできない高校再編を考えられないか。(意見等記入票)</p>

## (1) 学校規模・配置の考え方

### ウ 学級編制の弾力的な対応について

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国的に生徒数は減少していく状況にあるため、1学級35人編制が可能となるよう教職員定数の改正に向けて国へ働きかけができないか。(同様の意見あり)</li> <li>○ 普通高校に1学級35人編制を導入するか、無理であれば普通高校で特色化を図っているスポーツ科学科などに35人学級を導入できれば、学級減をしなくても済む。(同様の意見あり)</li> <li>○ 専門科目が開設できなくなっていく状況を踏まえると、1学級当たりの生徒数を少なくしつつ、先生方の定数も増やすなどの取組が中長期的に必要である。</li> <li>○ 学級数が減少すると専門的に指導できる教員数が減るのであれば、1学級当たりの生徒数を削減し学級数は維持するなど、偏差値を上げるような専門性の高い教育をできるようにしてほしい。</li> </ul>
西北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在のコロナ禍も踏まえ、高校の教職員の加齢について国に強く要望してもらいたい。(同様の意見あり)</li> <li>○ 少人数学級編制により教職員数が減少するが、リモートの活用により対応する方法もある。</li> <li>○ 重点校・拠点校における学校規模については、今後検討が必要であり、その際、少人数学級の導入についても検討してほしい。</li> <li>○ 近年、人とのコミュニケーションが苦手な生徒や、特別な配慮や支援が必要な生徒は増加傾向にあるため、個に応じたきめ細かい指導や支援が可能な小規模で少人数編制の高校が各地区に1校程度はあっても良い。</li> <li>○ 西北地区では、第1期実施計画期間にかなり大規模な統廃合を進めてきており、これ以上の統合は高校教育を受ける機会の確保の観点から困難であるため、少人数学級の導入を検討してほしい。</li> <li>○ 普通科の1学級の定員の標準は40人であるが、西北地区統合校の普通科が35人編制となっており、五所川原高校や木造高校でも35人編制となることを期待している。</li> <li>○ 現在のコロナ禍の影響による教育再生の観点から少人数学級編制の導入について議論されている状況の中で、40人学級を前提に高校再編を考えていくことに違和感を覚える。</li> </ul>
中南	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 35人編制とした場合、教職員定数が減少するため教員の負担も増えるが、本県でも工業高校などで導入されているため、普通科でも学級編制を見直した方が良い。</li> <li>○ 柏木農業高校については、専業農家の減少傾向から農業科目を志望する生徒は増えないが、専門性があるため、学級減を行わず1学級30人程度で編制してはどうか。(意見等記入票)</li> </ul>
上北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各地域の実情への配慮として、既存の高校を残し、普通科も1学級35人以下の学級編制などにより、市部・町村部の高校の定員バランスを見直すなど柔軟な対応も必要ではないか。</li> <li>○ 重点校・拠点校は1学級40人編制とし、その他の高校は1学級35人編制に変更すれば生徒数減に対応できるのではないか。(意見等記入票)</li> <li>○ 専門学科については、学級減が学科の消滅に直結するため、例えば、少人数学級編制を検討してはどうか。(意見等記入票)</li> </ul>
下北	特になし
三八	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新学習指導要領に対応した教育環境の整備・充実のため、オンライン学習ができる環境整備や少人数学級編制などをお願いしたい。(意見等記入票)</li> </ul>

## (2) 学校規模・配置の具体的な提案

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<p><b>&lt;統合に関する意見&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いつまで学級減で対応できるのか。もう少し学校自体を減らし、ある程度の規模を保ちながら、子どもたちが色々な授業や部活などを選べるような学校を作してほしい。</li> <li>○ 保護者の観点として、学級数の削減等により教員数が少なくなれば学校の質の問題も出てくるため、統廃合しても良い。</li> <li>○ 浪岡高校が今後さらに小規模化した場合、生徒が入学後、できることとできないことがある。浪岡地域の子どもたちを含め、どのような学校を提供していくのが良いか真剣に考える必要がある。事務局から統合のシミュレーションを示してほしい。</li> <li>○ 学級数減により教員数が削減されれば、専門教科の履修が困難となるため、教育水準の維持のためにも統廃合も致し方ないと考える。それぞれの学校の状況を見極めつつ、慎重かつ大胆な協議が必要である。(意見等記入票)</li> </ul> <p><b>&lt;学級減に関する意見&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒数の減少に伴って学級数を減らすという考え方でいくと、倍率の低いところはその対象にもなってくる。</li> <li>○ 学級減等で対応し、できる限り存続させた方が良い。家庭の経済的理由によって通学費や下宿代等が負担増となり、公教育を受ける機会を失わせてしまうことを懸念している。</li> </ul> <p><b>&lt;その他&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第2期実施計画期間では4学級減らさなければいけないという状況にあるが、重点校や拠点校などの規模を守りながら減らしていくしかない。</li> </ul>
西北	<p><b>&lt;統合に関する意見&gt;</b></p> <p><b>&lt;学級減に関する意見&gt;</b></p> <p><b>&lt;その他&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 木造高校は明治35年創立で伝統があり、駅から近く地理的条件も整っており、文武両道を進めているなどの理由から人気がある。また、祭りへの参加や縄文遺跡群に関する取組など地域の活動へ積極的に参加しており、地域に必要な「私達の高校」として今後も存続させてほしい。</li> <li>○ 鱒ヶ沢高校を西海岸地区の生徒のための学校として存続させたい思いがあるため、高校に任せきりにするのではなく、町も高校の魅力化に支援を惜しまず、力を尽くしたい。小規模校でも、少人数指導などの魅力ある教育活動ができるため県教育委員会には協力や支援をお願いしたい。</li> <li>○ 仮に、深浦町や鱒ヶ沢町から高校がなくなると、通学費が年間15、16万円の定期代、下宿費であればさらに高額になるため、これからは鱒ヶ沢高校が存続するように協力していきたい。</li> </ul>

中南

#### <統合に関する意見>

- 令和14年度以降も高校教育改革が必要と予想されるため、思い切って6学級規模程度の高校を統廃合することも考えられる。
- 今後さらに少子化が進む中で、人気のある高校をあえて学級減する必要はない。私も嫌だったが、思い切って高校を減らさざるを得ない。
- 進路志望倍率と入学者数の定員充足率を見ても明らかなように、入学試験が意図を成していない。中南地区の県立高校の学力レベルを現状よりも下げないためにも、弘前市内の普通科の高校は、弘前南高校を3年間弘前高校の南分校とした上で弘前高校と弘前中央高校の2校とし、それぞれ8学級規模とした方が、生徒の質も全体的に高くなる。(意見等記入票)

#### <学級減に関する意見>

- 第2期実施計画の学級減を検討するに当たり、できれば1か所の地域に集中することがないよう、痛みは分かち合った方が、受検生や保護者にとっても納得がいくのではないかと。
- 過去5年間の平川市の受検者数では、約3割が弘前市内の普通高校を志望し受検している。今後社会状況が変わる中で普通高校の学級数の削減については、是非最小限にしてほしい。
- これまで様々な学科を学級減してきたため、次は既存の高校を残して普通科中心に学級減で対応することも考えられる。

#### <その他>

- 志望倍率が高い高校に対して学級数を増やしてもらえないか。
- 倍率が低くなってきている弘前南高校は6クラス規模が適当なのかという疑問を持っている。
- 弘前実業高校農業経営科を志望していた生徒が柏木農業高校へ進学するか疑問であるが、弘前市の農業の維持のために倍率が低くなったとしても残してほしい。
- 農業のきっかけづくりになる高校の学習の場を残すため、柏木農業高校はなくさず他の高校をなくして新たに学科を設置するなど、子どもたちの夢のために思い切った判断が必要である。
- 弘前高校や弘前南高校の倍率が高くなっており、私立高校に進学している生徒が多いため、第2期実施計画期間内に3学級を減らす前提で検討しなくても良い。状況を見て後で決定する方がメリットはある。

**<統合に関する意見>**

- 普通科、農業科、工業科、商業科、看護科、国際関係等々、専門学科を選択的に学べる総合的な高校、更に定時制・通信制課程を備えた高校、必要であれば中高一貫教育も導入するような高校は作れないか。一定の人数が確保できれば、部活動や文化芸術活動等も充実できる。現存する高校を更に特色を持たせて維持していく方法も一つではあるが、施設設備を充実させた大規模な高校を作ることも一つの手ではないか。(同様の意見あり)
- 総合的な高校を作るとしても、予算面で課題があるのではないか。(同様の意見あり)
- 生徒の目線に立ったとき、生徒数が多く切磋琢磨できること、専門教員がおり授業が楽しいことや進学対応が充実していること、部活動が多いこと、通学に現状でも30分~1時間要していることを踏まえ1時間以内で通学できること、その高校が自然豊かなところにあること、施設設備が充実していること、教員も生き生きしていること、このような新設校が望ましいと思う。
- 通学範囲を網羅できる総合的な高校が各地域に配置されれば、施設設備の整備等が必要となる一方で、一定規模が確保され、多様な学科の設置や場合によってはくり募集を導入することで生徒の進路選択の確保などの面でメリットが大きい。既存概念の中での対応や単純な学級減・統合だけでは対応しづらいこともあり、抜本的な視点や考え方で改革が必要である。(意見等記入票)
- 普通科と複数の専門学科の統合について、他県の好事例があれば次回会議に資料提供いただきたい。また、学校新築や現状の高校の改築における予算規模を概算でも良いので資料提供いただきたい。(意見等記入票)
- 地元市町村の思いを考えると、学校規模の標準を下回っても学級減で対応したいが、学校規模の標準がある以上、困難が予想されても統合に向けて協議を進めるべき。統合に当たり、上北地区でニーズのある商業科と食物調理科は残す方向で考えてほしい。(意見等記入票)
- 普通科、職業学科を統合した高校の開設の意見があったが、三沢商業高校と十和田工業高校は他校と比べても高い実績を残しており、統合は両校にとっても個性を消すこととなり決してプラスにはならない。(意見等記入票)
- 学校規模の標準や1学級40人編制が変更できない限り、これまで同様、募集停止や統合を行うしかない。この場合は、通学環境の確保のため、スクールバス等の導入を付帯事項としたい。(意見等記入票)

**<学級減に関する意見>**

- 高校の学級数が、やむを得ず3学級から2学級になる場合もあると思うが、高校を無くさないでほしい。また、家庭の経済状況も考えると、通学できる高校を少しでも残してほしい。
- 重点校、拠点校、地域校の配置には異論はないが、配置を確定してから学級減を決めるのではなく、教育制度・各校の実情を含めた改革内容と連動して協議すべき。(意見等記入票)
- 志願者が著しく少ない高校での学級減を考えざるを得ない。(意見等記入票)
- 1学級35人編制が可能でないのであれば、地域の人材育成を考慮し、第2期実施計画では専門高校ではなく普通科の学級減が妥当ではないか。(意見等記入票)
- 上北地区においても重点校だからと6学級を維持せず、5学級としてレベルを上げることも必要と考える。(意見等記入票)
- 令和2年度入学生の進路志望倍率を踏まえれば、野辺地高校、七戸高校の学級減が考えられる。また、三本木農業恵拓高校の普通科を1学級減した上で三沢高校普通科を1学級増する方法も考えられる。最終的には倍率を基に考えなくてはならない。(意見等記入票)

### <その他>

- 野辺地高校は、鉄道やバス路線等の交通の便が良く、中学生の幅広い選択肢になっている。また、野辺地町教育委員会と野辺地高校とで教育連携パートナーシップを協定し、予備校への生徒の派遣や語学海外研修の実施を支援している。さらに、大学進学を希望する生徒への指導や地域課題の解決等を通じた探究的な学びを重視し、魅力ある高校を目指している。これらを踏まえ、野辺地高校を存続してほしい。
- 地元の中小企業等の即戦力、地域活動の担い手育成のためにも、地区ごとに普通高校、農業高校、工業高校及び商業高校を配置してほしい。
- 七戸高校は総合学科であり特色のある学科である。設置当初は5学級であったが、現在は3学級となっている。これ以上学級減となる場合、総合学科としての存続が厳しいため継続を希望する。
- おいらせ町において、百石高校の生徒の大学進学に向けた学習塾にかかる費用の半額を補助するなど様々な方策を実施・検討している。町内の中学生にとっては選択枠の中の大事な候補であり、この先10年は子どもの数は減らないが、百石高校が再編となる可能性を心配している。
- 入学者数や志望倍率のほか、現在通学している子どもたちの通学距離、時間及び費用も可能であれば示してほしい。（同様の意見あり）
- 学校配置案について、高校の特色、生徒の活動等が分からないため、志望倍率等、高校を点数化しても良いので、客観的なデータを基に事務局から意見を提案してほしい。

下北

### <統合に関する意見>

- 将来的に下北地区全体で募集学級数が10学級を切る状況になれば、1つの高校しか残らないことも想定される。その場合は、地区全域から通学できるよう手立てを講じた上で、全てのニーズに対応できる高校を配置し、人的・物的資源を集中させるという考え方もあるのではないかな。
- 小規模校にもメリットがあるとの意見もあったが、デメリットがはるかに大きいので統合に踏み切る時期であり、学校規模により科目開設数が大きく変わることや、生徒が希望する部活動に取り組める環境を踏まえれば、現実的な選択肢として、大湊高校とむつ工業高校の統合が1つのアイディアになる。

### <学級減に関する意見>

- 下北地区では、高校を統合した場合、通学への影響が顕著であると思うので、学級減で対応してほしい。
- 中学生が多く的高校から進学先を選択できるという多様性の確保の観点から、現時点では学級減で対応してほしい。
- 学級減の対象を検討する際には、第1次進路志望倍率等を考慮しなければ、希望する学校に行けない子どもが増えるという点を視野に入れて検討を進めた方がよい。
- これ以上、下北地区から高校がなくなってしまうと、中学校から高校に進学する際に生徒が他地区に流出してしまうことも考えられる。下北地区に残って、下北地区を好きになってもらい、将来的に下北地区に帰ってきて働いてほしいという思いがあるため、学級減で対応し可能な限り高校を存続させる方向で検討してほしい。

### <その他>

三八 <統合に関する意見>

- 三戸高校と名久井農業高校について、定員充足率の状況から、いずれ両校の存続が難しくなることも考えられる。そこで、本意ではないが両校を統合することも視野に入れてシミュレーションを考える必要があるのではないか。（意見等記入票）

<学級減に関する意見>

<その他>

- 三戸郡に子どもたちの目標となる高校を残してほしい。（同様の意見あり）
- 三戸町では小中一貫教育に取り組んでおり、小中一貫9年間と高校3年間を結んで小中高12年間で三戸町の児童生徒を育む教育を進めるため、三戸町内の全ての小中学校と三戸高校で連携協定を行っているところ。このため、第2期実施計画において三戸高校の存続を強く要望する。
- 仮に三戸高校がなくなれば、三戸町から八戸市や二戸市へ通学する生徒の多くは電車を利用することになるため、できれば地元の高校に通える環境を整えてほしい。「この高校で勉強したい」、「この高校で部活を頑張りたい」と思える学校づくりも大切である。（同様の意見あり）
- この地域で生まれ育った子どもたちが郡部に貢献できるよう、三戸郡内の高校を存続してほしい。
- 三戸高校には三戸郡はもとより八戸市、さらには岩手県北から入学者がおり、普通科希望者の広域な受け皿となっている。国の高校教育改革による新しい普通科の教育制度の考え方からも、三戸郡に普通科の高校を残してほしい。
- 名久井農業高校は水資源に関する研究で世界一となったことが報道されたように顕著な研究成果を上げていることから、今後も存続してほしい。
- 三戸郡の主要産業は農業であり、名久井農業高校を残してほしい。
- 子どもたちの多様な教育を受ける機会を設けるため、八戸水産高校、八戸商業高校、名久井農業高校は学校規模の標準を満たしていないが存続させ、子どもたちに選択肢を与えてほしい。
- PTAの立場としては、三八地区において喫緊の課題になっている三戸高校及び名久井農業高校の存続を希望する。また、これからも人口減少が進んでいく中で、この2校だけの問題ではなく、八戸市内の高校も含め、三八地区の全ての高校の存続を希望する。
- 三八地区全体のバランスを考慮せず検討を進めることは危険である。八戸市内と三戸郡のそれぞれの状況を総合的に判断し、慎重に検討を進めてほしい。（同様の意見あり）
- 三八地区の高校は、できるだけそのまま存続させてほしい。今後の人口減少に当たって、高校生や学校と連携し地域の活性化を図る事業など、イベント等での活用が求められるため、地元の高校で学べる環境を用意し、できる限り地域の中学生の選択肢が広がる形にしてほしい。
- 三戸郡において「地域を支える人財の育成」は大変重要である。小学校においても、地域に誇りを持ち、貢献しようとする子どもの育成に力を入れている。また、五戸高校の募集停止による影響が見られることから、三戸郡の高校については、引き続き地域や社会を支える人財を育成する高校として存続できるようにお願いしたい。
- 中学生や保護者のニーズに応じた結果かも知れないが、郡部の高校が統廃合で少なくなり、結果的に市部に偏っているため、最低限、三戸郡に高校を残してほしい。（意見等記入票）
- 三戸地域から高校がなくなることで単純に八戸地域へ進学するとは限らず、岩手県への進学も考えられ、就職、進学、生活も他県へ流出してしまう懸念がある。子どもたちの選択肢が増えるよう、三戸高校の存続を望む。（意見等記入票）

### 3 定時制課程・通信制課程の配置

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定時制課程・通信制課程については、学び直しの生徒もたくさんいる。また、様々な困難等を抱えて入学する生徒もあり、最後のセーフティーネットとしての役割を十分果たしているため現状どおりが良い。(同様の意見あり)</li> </ul>
西北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定時制課程・通信制課程の配置については、基本的に現状維持で良い。</li> <li>○ 不登校など様々な事情を抱えた生徒が増えているだけでなく、新型コロナウイルス感染防止の観点からも通信制は重要である。西北地区において、通信制課程が設置されている五所川原第一高校とのバランスを考慮しながら、さらに整備を進めてほしい。</li> </ul>
中南	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 尾上総合高校には、様々な事情を抱える生徒、とりわけ不登校傾向にある子どもが在籍しており、広く学ぶ機会を提供する上で重要な役割を果たしているため、現状維持をお願いしたい。(同様の意見あり)</li> <li>○ 尾上総合高校に通うことが難しい弘前市の十面沢・十腰内地区や三和・小友地区等、鱒ヶ沢町や鶴田町の近くに在住している子どものため、既存の弘前工業高校や弘前中央高校に定時制総合学科を設置してほしい。(意見等記入票)</li> </ul>
上北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経済的な理由や学力、特別な支援が必要な子どもたちは三沢高校の定時制課程に進学することでかなり救われている。第2期実施計画でも三沢高校の定時制課程は継続してほしい。(同様の意見あり)</li> </ul>
下北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定時制課程・通信制課程については、現状の設置を継続してほしい。(同様の意見あり)</li> </ul>
三八	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 八戸中央高校は三部制の定時制としてニーズがあり、地域には必要な学校である。また、通信制は高校生活を再スタートする学校としての意義がある。今後も三八地区に定時制・通信制高校を残してほしい。(同様の意見あり)</li> </ul>

#### 4 多様な教育制度

##### (1) 全国からの生徒募集について

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<p><b>&lt;導入の必要性等&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒数が少なくなっていく中で非常に大事な取組である。</li> <li>○ 目的や効果は理解できるが、実施まで相当なエネルギーを要する。(意見等記入票)</li> <li>○ 将来的な青森県への移住につながるチャンスも期待できるため、速やかに導入すべき。なお、「空き家」を活用して学生寮のような運営が可能となれば、他県の保護者も安心して本県高校を受検させることにつながるのではないかと。(意見等記入票)</li> </ul> <p><b>&lt;導入範囲・方法&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ただ制度的に青森県で入学できるだけでは、他県から生徒が志望するとは考えられないので、青森県に来ないと受けられない授業など、特色あるカリキュラムがあれば良い。(同様の意見あり)</li> <li>○ 市町村単独ではなく県が一緒になって支援し、それぞれの学校で魅力ある学校づくりに取り組んでいければ良い。</li> <li>○ オリジナリティある学科や専門分野に特化した学科など、生徒にとって有意義で興味のある学科の創設が重要である。(意見等記入票)</li> <li>○ 募集規模、対象校、教科の専門分野及び地域等、様々な制約が関わることから、まずは県教委で原案のための素案をたたき台として示してほしい。(意見等記入票)</li> <li>○ 全国募集を行う前に、当該校の特色化を図るべき。一つの手段として、近年注目されているN高をモデルに、オンラインによる通信教育を主として他県生徒を受け入れ、スクーリングで一定期間の青森市内滞在をノルマにする等、検討の余地はある。(意見等記入票)</li> </ul>
西北	<p><b>&lt;導入の必要性等&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入について賛成であるが、魅力ある学校づくりとセットで考えなければならない。</li> <li>○ 導入に反対ではないが、魅力づくりには継続した取組が必要である。</li> <li>○ 導入を目指す市町村のモチベーション以上に、県の本気度に期待したい。(意見等記入票)</li> </ul> <p><b>&lt;導入範囲・方法&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 統廃合の可能性がある小規模校においては、予算をかけて教育環境を整備することへの判断が難しいため、全ての高校へ導入するのは厳しい。現実的に考えると、特色ある教育を行っている工業や農業の専門学科へ導入すれば良いのではないかと。</li> <li>○ 学校活性化策の一つとして、鱒ヶ沢高校に導入してはどうか。それに伴い、県としてもサポートをしてほしい。</li> <li>○ 鱒ヶ沢高校では、SBP活動として、生徒が地域の課題を見つけ、解決するために地域活性化に取り組んでおり全国2位となったほか、楽天と連携したビジネス学習などの取組があり、これらをセールスポイントとして打ち出し、導入の際の目玉の一つにすれば良いのではないかと。</li> <li>○ 木造高校深浦校舎、鱒ヶ沢高校が所在する西海岸地区は漁業が盛んであるが、担い手不足や後継者不足の課題がある。また、太平洋側にしか水産高校が配置されていないことを踏まえ、日本海側に漁業に関する学科を設置し、導入できたら面白いのではないかと。</li> <li>○ 全国から生徒を迎えるに当たっては、自分の夢や目標に向かって挑戦したいと思えるような学校づくり、あるいは中学校のときは輝けなかったが、リセットして頑張りたいと思えるような、魅力ある学校づくりが必要である。</li> </ul>

<p>中南</p>	<p><b>&lt;導入の必要性等&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県をあげて積極的に取り組んでほしい。地方の人口減少や都市部への流出に歯止めがきかない状況下で、高校時代に青森県で暮らすことで、青森県への定住・就職の可能性も増える。</li> <li>○ 地元の元気な企業や地域の方々のニーズを大切にして、全国から本県の農業や商業を勉強してみたいと思われるような、この地域だからこそできる新たな取組を進めてほしい。(同様の意見あり)</li> <li>○ 全国的に見て特色ある学科を有する高校は、導入しても良いが、その他の高校に関しては、本県の子どもたちの高校教育を受ける門を狭めることとなるため反対である。(意見等記入票)</li> </ul> <p><b>&lt;導入範囲・方法&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 私立高校の場合には、全国的に特徴的な運動部があるため、他県の中学生であっても、積極的に県内の私立高校に入学している実態がある。一方、普通科の高校に県外から生徒を呼び込むには、魅力を出していくことが必要だが難しさはある。</li> <li>○ この高校に入りたいと思ってもらえる魅力の確保が必要であり、特色を打ち出すことが求められる。できれば中学生や小学生のうちから、青森県に家族ぐるみで移り住んでもらい、父母には地元の企業が就職の受け皿となる環境を整備してもらうのが理想である。</li> <li>○ 導入に向け、ホタテと高級魚などの養殖を中心に学ぶ水産科の創設、寒冷な気候に適した果物の栽培・加工・販売等の学科の創設、相撲部やアーチェリー種目の強化などスポーツ科学科の再編、既存の情報デザイン科の枠を超えたIT関係の学習によるユーチューバーやeスポーツ選手の育成、安全性の高いLINE等アプリを作る情報デザイン科の再編を検討してはどうか。(意見等記入票)</li> </ul>
<p>上北</p>	<p><b>&lt;導入の必要性等&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入に賛成である。しかし、県外生徒を集めるには、青森県そのものの魅力をアップする必要がある。(意見等記入票)</li> <li>○ ユニークかつ魅力ある教育活動を実践していなければ、導入効果は期待できない。(意見等記入票)</li> <li>○ これまで実績のある私立高校のみで実施すれば良いのではないか。(意見等記入票)</li> </ul> <p><b>&lt;導入範囲・方法&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特色のある学科である百石高校の食物調理科は、全国から生徒を募集しても良いのではないか。</li> <li>○ 県外から多数の生徒が志望すると県内の生徒へ影響がある。全国的に制限を設けている高校が多いことから、導入に当たっては制限を設けた方が良い。(同様の意見あり)</li> <li>○ 本県では、地域性から職業教育を主とする専門高校が向いている。また、地方自治体が進めている移住者増加計画との連携が考えられる。(意見等記入票)</li> <li>○ 全ての高校で実施するのではなく、全国的に見て特色や魅力のある高校で実施すべき。(意見等記入票)</li> <li>○ 入学者数確保のため、地域校である六ヶ所高校へ導入すれば良いのではないか。(意見等記入票)</li> <li>○ 高校が所在する市町村の全面的な財政支援が必要となる。安価な宿泊施設、生活面の支援を市町村がどれだけバックアップできるかが一つの課題である。(意見等記入票)</li> <li>○ 導入する場合、県としても支援(HPやパンフレットによる広報等)が必要ではないか。(意見等記入票)</li> </ul>

下北 <導入の必要性等>

<導入範囲・方法>

- 他県の事例を見ると、地域における支援として、自治体による寮の設置などが多いが、むつ工業高校の場合は民間企業との関係も深いので、企業からの支援を受けながら同校に導入することも考えられるのではないかな。
- 大間高校は、北通り地域にとって将来にわたって必要な高校であるが、北通り地域だけでは、生徒数の確保が困難になることは明白であるため、大間高校への導入を実現してほしい。
- 他県の生徒や保護者に入学を希望してもらうためには、魅力ある高校でなければならない。このため、大間高校の校地内に寄宿舎を建設し、全寮制のような高校とした上で、高速通信回線を整備することにより、本県のICT教育における先進校を目指すというのではないかな。当然、関係町村が思い切った援助を提示することが重要であり、県教育委員会としても、地域校の活性化に向け、学校と地域等が一体となった検討を是非促してほしい。
- 大間町のマグロ、佐井村のウニ、風間浦村のアンコウに加え、大間町と台湾との交流や、風間浦村と京都府の同志社中学校との交流など、地域のあらゆるリソースを大間高校で活用してほしい。
- 全国から生徒を集めるためには、募集する前に、魅力ある教育活動が求められるので、北通り3町村の教育委員会として、今後、様々な形で支援しながら大間高校の充実を図っていきたい。
- ICTを活用した教育活動や、SDGsに関する取組を進めるためには、現在採用されている教員のみでは難しいため、教員の全国公募、大学や産業界との連携等が必要である。大間高校は好事例を作れるような気がするので、真剣に取り組んでほしい。
- 下宿や寮を確保しなければ、他県の生徒は集まらない。近年、むつ市内の下宿施設の数が増えている点も考慮しながら検討してほしい。
- 他県のような支援は難しいハードルであり、県としてどのような助成ができるのか不明だが、検討する意味は大きい。(意見等記入票)

三八 <導入の必要性等>

- 導入により県内生徒の募集人員の減少が危惧される一方で、第一次産業の担い手候補が進学または進学を検討する際の選択肢の一つになるのであれば、将来的には有意義なことである。
- 多くの県で導入しており、紹介されている効果からも県内生徒・県外生徒ともに切磋琢磨し成長できる機会になることが期待できる。地元自治体の協力なしに進めることは困難であるため、希望する自治体があれば早急に認めて進めてほしい。将来的には、県内生徒の中で地元の魅力に気づき県内に留まる人の増加、県外生徒の中で県内に留まる人や青森県の魅力を発信する人が育成されることを期待している。(意見等記入票)
- 岩手県の葛巻高校では、学校に通えなくなった生徒が遠方から来て教育を受けている事例がある。教育を受ける機会があることは良い。(意見等記入票)

<導入範囲・方法>

- 県外生徒が地域の良さ等を理解すれば、家族等がこの地域を訪れることにつながる。また、高校卒業後、県外生徒が本県を離れたとしても、地域のことを県外で発信してくれる心強い人材になるので、八戸市内の高校の倍率等に影響を及ぼさない程度に制限を設けながら、県外や海外の生徒を受け入れることを試みて良い。
- 本県全ての高校を対象とし、生徒募集の導入範囲や方法に制限がない場合、本県生徒の県立高校進学希望及び合格率への影響が懸念される。職業教育を主とする専門学科に限り導入するか、地域活性化策と併せて地域に根差した教育活動を特色とし、在学中・卒業後のメリットを打ち出すなどして、本県の高校で学びたいと思うような魅力を発信する工夫が必要である。
- 三戸高校が地域校となるならば、生徒数確保の一つの手段として、三戸高校の特色を全国に向け発信しながら、全国からの生徒募集を導入してはどうか。
- 名久井農業高校には寮が完備されており、また、水資源に関する研究で世界一となっているので、研究活動に取り組みたい生徒がいれば受け入れられるようにした方が良い。南部町では、名久井農業高校に導入されるのであれば、補助を検討する必要があると考えている。
- 島根県では高校の60%が寮を持っており、他県と比較して圧倒的に多いようである。全国からの生徒募集を導入する際には、下宿も考えられるが寮があれば良い。
- 研究活動で全国からの注目度の高い名久井農業高校など、専門高校に限定して導入してはどうか。
- スポーツ関係で他県へ進学している事例はたくさんあり、逆に本県においてもスポーツ関係で他県から生徒を受け入れてはどうか。
- 県内の子どもの進学機会が狭められないよう配慮が必要である。例えば、全国的に特色のある学校・学科において、県内生徒の進学に影響がない程度に募集枠を設定する等の工夫を行った上で導入してはどうか。(意見等記入票)
- 名久井農業高校では、普通教育では得られない特性や研究があるため、全国にアピールして生徒を募集する方法はどうか。(意見等記入票)

(2) その他の教育制度について

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<p>○ 中高一貫教育について、一貫校に入ってくる中学生は併設型で入ってくる中学生と一緒にいる混在型のクラス編制を避け、「中等教育学校型」のクラスにすべき。保護者の多くは、先取り教育に期待しているため、その要望に応える責任がある。なお、中高一貫校の配置及び学校数は、既に設置されているスポーツ科学科と同地区・同数で十分である。(意見等記入票)</p>
西北	<p>特になし</p>
中南	<p>○ 中高一貫教育に関して、全国的に生徒減少が進む中で弘前市内を見た場合には、弘前大学附属中学校の生徒の割合が他校に比べて相対的に増えている状況にある。一例ではあるが、本来学区内の中学校に入学する予定であった子どもが附属中学校に進学することにより、学級減が余儀なくされてしまうこともある。中高一貫教育の導入が俎上に上がるのであれば、そのような状況に弘前市があることも勘案してほしい。</p> <p>○ 黒石高校普通科、商業科については進路志望倍率や入学状況を踏まえると、このままでは継続的に1倍を切る状況となり学力低下等が懸念されるところである。このため、例えば、黒石小学校、中郷中学校、黒石高校を県立学校として小中高一貫教育を実践できる教育環境を整備してはどうか。(意見等記入票)</p>
上北	<p>特になし</p>
下北	<p>特になし</p>
三八	<p>○ 重点校に併設型中高一貫教育を導入することについて、キャリア教育の視点から6年間を見通して、生徒一人一人の個性や能力を伸長することにおいて効果を上げることが期待できるが、中学受検による経済格差や教育格差を生じることが懸念される。本県で導入済みの三本木高校と附属中学校について、メリットとデメリットを十分に検証した上で検討をお願いしたい。</p> <p>○ 高校教育を受ける機会の確保については、各高校の特色を前面に出し、地理的環境にも配慮した進め方を希望する。三八地域は総合学科やくくり募集等の制度の導入が進んでいないように感じる。また、教育環境の整備について、予算確保とともに学校裁量の拡充も必要である。(意見等記入票)</p>

## 5 その他

### (1) 学科等について

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1期実施計画によれば、グローバル教育等の特定の分野における先進的な取組を重点校に担わせるとしているが、各地区の2番手・3番手の学校をグローバル教育等の推進校にしてはどうか。東青地区は青森南高校に外国語科が設置されているため、推進校にすると良い。</li> <li>○ グローバル教育等の推進校指定に関しては、重点校に集中させるのではなく、青森東高校や青森南高校等の進学校にもバランスよく振り分けることで、高校の独自性や特色が明確になり、中学校卒業予定者も進路選択をしやすくなるという利点がある。(意見等記入票)</li> <li>○ 青森北高校今別校舎が令和3年度末に閉校となるため、在来線や新幹線の駅に近い青森北高校や青森西高校に、今後のニーズに対応できる学科を設置することで、教育機会の確保及び進学希望者増加を見込む方法もあるのではないかと。(意見等記入票)</li> </ul>
西北	特になし
中南	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他地区と比較すると中南地区の普通科の募集学級数の割合は少ない状況にあるため、学級減をする際にはその点も踏まえて検討する必要がある。</li> <li>○ 令和3年度に弘前実業高校農業経営科が募集停止となり、柏木農業高校に学びを集約することとなっている。平川市の基幹産業である農業を振興する上でも、柏木農業高校の果たす役割は大変大きいと感じているため、学習内容等の一層の充実を図るなど継続をお願いしたい。</li> <li>○ 最近の農業はビジネスとして成り立つものと見直されてきており、後継ぎ候補として是非やってみたい、新たに就農したいというニーズが増えている現状がある。このため、新たな学科を設置するなど基幹産業をもっと盛り上げる、中南地区だからこそやれることがある。</li> <li>○ 少数であるが中学生の親の意見として、弘前市は観光都市であるため、弘前工業高校などに観光科を増やした方が良いという意見があった。</li> </ul>
上北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オール青森の視点で、子どもたちがこれから就くべき職業は何なのか考えられるような高校を作ってほしい。それには、SDGsの実現に向けた大きな目標を持った高校が必要ではないかと。また、短命県返上という願いを子どもたちに託したいという思いがあり、高校ではそのような大きな目標を掲げ、新しい普通高校の在り方を考えていく必要がある。</li> <li>○ 普通科の高校教育改革として、文部科学省で文理融合型の普通科の導入が可能となるという話もあるが、そのような情報も踏まえて、先を見据えた高校教育改革を進めていければ良い。(同様の意見あり)</li> </ul>
下北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大間高校に林業科など、地域の環境や産業に結びつく学科が設置されても良い。</li> </ul>
三八	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近年の大学進学率からも、学歴を重視する社会であり進学校以外の高校の志望倍率の低下を招く一因となっている。また、コロナ禍による本県世帯の所得減収は避けられない状況であり、学費の負担が困難になることが予想される。このため、本県の人材マネジメントを考える上で、高卒者でも将来に対し大きな展望が持てるような魅力ある学科の創設が重要な課題である。社会における人材リサーチ、高校3年間で達成できる「社会即戦力科」ともいべき人材育成の教育課程の編成、本県の将来的な人材不足を見据えた人材育成のコストパフォーマンスを高める思考が必要である。(意見等記入票)</li> </ul>

## (2) 特別支援教育の充実について

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<p>○ 高校においても通級指導など特別支援教育に力を入れていると聞き、大変喜ばしい。小・中学校には特別支援学級があり、生徒の持っている能力によって普通学級と一生懸命交流させるという強い意思を持って学校を運営している。このような取組を続けていくことは、この地区、この県の能力をさらに発揮できる大きな要素である。</p>
西北	<p>○ 基本方針にある特別支援学校との連携の中に、特別な支援を必要とする生徒の受入れ、特別支援学校と連携した教員研修や人事交流などがあるが、小・中・高校と発達段階が上がるにつれ、教職員の発達障害等への理解やノウハウが薄れていく傾向にあることを念頭に、連携を進めていくべき。</p>
中南	<p>○ 北斗高校、そして令和2年度から八戸中央高校に通級指導が導入されている。配慮が必要な子どもはここ数年非常に増えてきており、その中で子どもたちのサポートをしていく上で、通級指導の役割は非常に大きい。是非中南地区にも通級指導ができる拠点が増えれば良い。</p> <p>○ 北斗高校や八戸中央高校で通級指導を導入しているが、拡充をお願いしたい。他校にも門戸を開いて受け入れてほしい。高校に進学しても、対人関係や学習面での困難など、様々なことを抱えている子どもたちへの配慮も今後も併せてお願いしたい。</p> <p>○ 不登校となっている子どもや発達障害のある子どもは非常に多くなってきており、尾上総合高校に御指導いただき立ち直っている生徒の事例を聞く。その点でスクールライフサポーターの配置は非常にありがたい。生徒一人一人を青森県の人財として育てていくためには、多様性に対応した教育が望まれる。</p>
上北	<p>○ 少子化の中において、特別な支援を要する子どもたちの数が確実に増えている現状があることから、高校教育改革と特別な支援を要する子どもたちの教育をリンクさせ強化してほしい。</p> <p>○ 小・中学校では特別支援学級において手厚く支援しているが、高校受検のときには疎外感がある。社会全体でインクルーシブ教育を考えていく必要性を感じており、高校においても、今以上に考えてほしい。(意見等記入票)</p>
下北	特になし
三八	特になし

### (3) 通学支援等について

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三厩や竜飛などにいる子どもたちが青森市へ通学する場合、時間的な問題や下宿が必要となることがあるため、県としても助成や奨学金の拡充などの補助等について考慮してほしい。(同様の意見あり)</li> <li>○ 弘前、青森、八戸などに立派なものでなくても良いので、寮を配置すれば遠方から通学する生徒や保護者も少しは経済的に楽になる。</li> <li>○ 通学や下宿に要する費用を払ってまで青森県の高校にいるのか。選べる場所が少なくなると、その段階で県外へ流出する生徒が増えるのではないか。</li> <li>○ 生徒にとっての目標とする高校(選択肢)は十分ある。課題として、通学方法や下宿・寮などの配置、それらの資金援助など検討を要する。(意見等記入票)</li> <li>○ どうしても希望の高校に通学するのに公共交通機関では対応できない場合も想定されるが、空き家を活用して学生寮のような運営が可能となれば対応できるのではないか。(意見等記入票)</li> </ul>
西北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 通学費や下宿費の支援については、市町村任せではなく県教育委員会から早々に示していくべき。</li> <li>○ 地域の学校がなくなると通学費や下宿費などの負担が増えることになるので、県と市町村が協力して新しい通学システムを構築してほしい。</li> <li>○ 市町村によっては、統合等による通学費等の負担増に対する支援が、財政面などから難しいこともある。</li> </ul>
中南	特になし
上北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市町村によっては、通学費等の支援があっても通学できる公共交通機関がない場合もある。</li> <li>○ 市町村に1校しかない高校が募集停止になった場合は、その地域の生徒に通学費の一部を補助してはどうか。(意見等記入票)</li> <li>○ 近くの地域に通学できるに越したことはないが、学びたい方向性が決まっていれば、交通機関や下宿先などの環境が整っていることが重要となる。(意見等記入票)</li> </ul>
下北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全ての高校とは言わないが、寄宿舎を設置するなどにより、子どもが通学の心配をせず、高校の中で生活する時間を確保できるような環境整備も必要である。</li> <li>○ 将来的には、大間高校が募集停止になるかもしれないが、大間町等の生徒がむつ市内の高校に入学し部活動に加入する場合は下宿が必要となるため、経済的な負担に対する支援も検討してほしい。</li> <li>○ 通学に対して具体的にどのような支援が可能なのか。現在も地域によっては距離的・経済的な負担により進学を断念せざるを得ない子どもがいるが、今後さらに難しくなる可能性がある。</li> <li>○ 下北地区において一番必要な対策は、スクールバスの運行と下宿先の確保である。全国からの生徒募集よりも通学支援等の整備が急務である。(意見等記入票)</li> </ul>
三八	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高校再編が進むと、子どもの通学が困難な地域が生じる。公共交通機関の利用にも限りがあるため、市町村と連携してスクールバスの運行を検討、または、遠方からの通学者が多い高校は寮を完備する等の対策が必要である。(同様の意見あり)</li> <li>○ 高校への通学を支援する制度があれば家庭が助かるが、地元の高校ではなく八戸市内や二戸市内の高校に入学する生徒も多くなる可能性がある。</li> <li>○ 統廃合することによって、通学が困難な生徒が出てくるため、通学費の補助等の検討やバスや電車の公共交通機関などの整備が必要である。(意見等記入票)</li> </ul>

(4) その他

地区	地区意見交換会の主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学生は早ければ5～6月には進路に向かって突き進んでいく状況になるため、早めに高校教育改革の情報を示してほしい。</li> </ul>
西北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本方針の目指すべき人財について理解できるが、実用主義的すぎるように感じる。もっと学力が低い子ども達に対する根本的な教育理念を持つべき。</li> <li>○ 現在、コロナ禍の不安定な情勢となっているため、2年程度様子を見てから第2期実施計画を考えるべき。</li> <li>○ 歴史のある学校が閉校や統合となることは、地域にとっては一大事だが、最終的には学びの主人公である子どもたちにいかに学習の質を確保し、提供できるかという観点から現在の高校教育改革に取り組まれている。</li> </ul>
中南	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 重点校・拠点校以外の高校に格差が生まれぬよう、力の入れ具合を均等にしてほしい。</li> <li>○ 県教育委員会としても、やむを得ず高校教育改革を行ったということの理解が得られるようなデータの示し方や説明が必要であり、話し合いを重ね、地域に受け入れられる妥協点を示すことが大事である。また、早めの情報の提示が一番大事である。</li> <li>○ 生徒数の減少に対応するためには、統廃合も考えられるが、学校教育の役割として伝統や文化を練り上げ、それを伝承していくことを考えたときに、それぞれの高校の特色を生かしながら進める必要がある。</li> <li>○ オール青森という観点は必ずしも県立高校だけを指すのではなく、青森県の高校生として育てるという意味合いであれば、今後は授業料の壁がなくなるので、県立高校に適する生徒、私立高校に進学して力を伸ばせる生徒、そのような選択肢ができていくのではないかと。</li> <li>○ 定時制課程について、コロナ禍の中で様々な学校等で取り組んでいるオンライン授業により、不登校の子どもが減少しているというプラスの部分も見つかっており、コミュニケーション能力を向上させることも期待できるため生徒を受け入れる過程でも必要になる。(同様の意見あり)</li> <li>○ 私立高校は多様化し特色が見えて頑張っている印象を受けるため、県立高校も同様に、ニーズを捉えながら保護者や地域の方などと連携して学校づくりをしていければ良い。</li> <li>○ 中学生及び保護者のニーズに本当に合致しているか確認した上で、私立高校も含めて例外なく削減していくことも考えられる。(同様の意見あり)</li> <li>○ 令和9年度に1割の学級数が減少することを見据えると、5年という計画期間ごとに区切って考えずにその都度状況を見て対応していけば良い。</li> </ul>
上北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経済的に近くの高校しか選択できない中学生もいるため、県として、後期中等教育を子どもたちにどう保障していくかという点は大事ではないかと。</li> <li>○ 郡部の高校を良くしようと挑戦する人財がいれば良い。県教育委員会が公募するなどそのような人財を発掘しても良いのではないかと。</li> <li>○ 全国的な少子化の中で、基本方針の中でも謳っているように、オール青森の考え方を進めていくことが妥当である。(意見等記入票)</li> </ul>

下北	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本方針で挙げている高校教育改革に関する背景を踏まえた県教育委員会としての方向性を打ち出すべき。オール青森の視点と言いつつ、地区ごとの生徒数の減少を基に学校規模・配置を検討しているが、もっと子どもたちの選択肢を広げ新しい学びに向かう提案ができると良い。</li> <li>○ 現在のコロナ禍により将来を見通すことが困難な時代であり、それに対応できる高校づくりをしてほしい。また、文部科学省でも、全ての高校でSDGsの実現に向けた教育を進めるよう要請していることを踏まえ、持続可能な地域づくりを実現するために、地域課題を自分たちで解決していくという目標を大きく打ち出してほしい。</li> <li>○ 大学では、一人一人が課題に関するプレゼンテーションを行い、友人や教員が良い点や改善点を話し合うなど、お互いを認め合う場を設定しながらオンライン授業が進められており、高校においても、定時制課程及び通信制課程における教育活動や、不登校の生徒に対して応用できるのではないかと。実際の体験とオンライン授業を使い分けながら単位取得を認めることにより、高校への通学に関する課題も少しは解決できる。</li> <li>○ 企業が必要とするのは即戦力であり、むつ工業高校では生徒に多くの資格を取得させ、資格を持った即戦力として卒業させていると聞いている。また、高校における地域を愛する教育が薄いように感じるが、企業としては地域を愛する即戦力を必要としている。</li> <li>○ 医学部進学に向けた取組については、基本方針にも明記すべき。</li> </ul>
三八	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後、学級減や統廃合の対象となる高校が所在する市町村に対しては十分に寄り添い、一層丁寧に対応していただきたい。</li> <li>○ 募集停止等の情報が公になると、保護者はその報道や発表に応じて、自分の子どもたちの将来を前もって決めてしまうこともあるので、発表については極めて慎重にしてほしい。</li> <li>○ 若者が県内で仕事ができる環境を作ってもらえば、少子化問題等を解決することにつながるのではないかと。県外に出た人たちが青森県に戻ってきて、家族を持つことで高校が減ることがなくなる。</li> <li>○ 特色や魅力ある高校づくりにより、生徒数を確保する取組を市町村とともに実施してほしい。</li> <li>○ 少子化、人口減少が加速しているため、統廃合はやむを得ないが、もっと地元や生徒・保護者の意見を聞く機会があれば良い。（意見等記入票）</li> <li>○ コロナウィルス拡大の影響により、ICTを活用した授業が注目され、小中学校では急速に進められようとしている。将来構想検討会議答申において、「遠隔授業等について、研究を進める必要がある」とされており、導入による学校連携の推進については小規模校の教育活動の充実につながることを期待されるが、遠隔授業等の研究はどのようなになっているか。（意見等記入票）</li> </ul>